

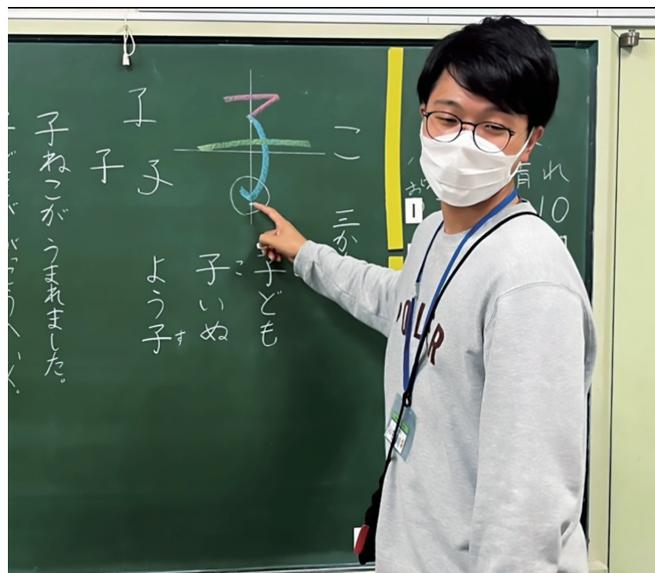
たくさんの 出会いを通して

笹川 晃希

大阪芸術大学 初等芸術教育学科 2021年卒業
卒業後 初等芸術教育学科の副手になり、教員採用試験の勉強をする傍ら、コロナ禍であったため、学生が楽しめるイベントを企画したり、「アートの森」などボランティアに参加。

翌年、教員採用試験に合格し箕面市立中小学校4年生担任として勤務。

今年度は、支援学級担任として勤務。



私は絵を描くことや物をつくるのが好きだったので芸大に行きたいと思い受験しましたが、仕事や将来の事を何も考えていなかったため、教員免許がとれる初等芸術教育学科を選びました。そのため、教師になりたいという気持ちはなく、子どもが好きというより苦手意識があったので、入学当初は不安な気持ちで過ごしていました。

ある時、教授から「ボランティアでアートの森に来ないか」と声をかけられました。

「アートの森」では、子どもたちが自由に制作を楽しむ姿や考える姿、また、子どもだけでなく保護者やスタッフも一緒に楽しみ、考え、様々なものを自由に制作している姿がありました。その光景が、とても印象的で今でもはっきり、鮮明に覚えています。

今まで、子どもと触れ合う機会がなかったため、どう接したらよいか分からず、苦手意識を持っていましたが、アートの森に来ていた子どもたちの自由な発想や、思いを表現する姿、一生懸命にものをつくる姿勢が本当に素敵でした。そんな中、一人の子が「先生、こうしたいんやけど、どうしたらいいかなー」と聞いてきました。私は一緒に考え「こうしたら良いんじゃない」と提案すると、黙々と作りはじめました。その作品が完成した時の子どもの嬉しそうな顔、満足そうな顔が本当に素敵で、私も幸せな気持ちになりました。

子どもたちからは「先生ありがとう」「先生できたでー」と声をかけられ、まだ学生の私を先生と言ってくれる子ども達の嬉しそうな顔や、私の一声でハッと閃いて制作する子どもたちをみて、将来、教師という仕事も

良いかもしれないと思えたきっかけがこの「アートの森」でした。

ボランティア(大学のイベントなど)に参加したことで、何事にも積極的に取り組むことや挑戦することができるようになったと思います。

また、人に教えることの楽しさ、様々な人の思いや考えを聞く面白さ、人前で話す難しさを知り、何事にも挑戦してみる勇気が湧いてきました。

他にも教授から声をかけていただき、根付コンペティションに応募したり、アクセサリーを販売したりと自分のスキルが広がり、様々な職種の方や人と話す機会も増え、色々な経験をする事ができました。これらの経験や体験が、今の仕事に大きく繋がっています。

現在は支援学級担任として子どもたちに寄り添い、どうしたらその子のためになるのか、どうしたら楽しく学べるのか、今までの経験を思い出しながら考え、子どもたちを支援しています。

推薦者 / 大阪芸術大学 初等芸術教育学科
学科長 車谷 哲明